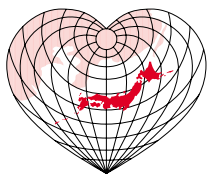


日本心臓財団



HEART NEWS

企画 日本循環器学会
教育研修委員会
監修 松崎 益徳
山口大学大学院医学研究科
器官病態内科学教授
発行 日本心臓財団

ハートニュース

心不全の予後

心不全の予後とは

心不全とは、あらゆる心臓の病気が最終的に行き着く病態、症候群のことをさします。予後とは、病気の

たどる経過の中でどれだけ長く生きられるか、といった意味です。心不全の予後は一般的にはよくありません。予後はその原因となる心臓病の種類、症状の重症度によって異なってきます。心不全の重症度分類はニューヨーク心臓病協会(NYHA)のものがよく使われています。重症度のIV度になった心不全患者は二年以内に五〇%が亡くなるといわれています。また、III度でも一度IV度を経験している患者の五年生存率は約五〇%といわれています。ですから、で

きるだけ軽症のI、II度の段階にとどめて、重症化しないように早期から治療する必要があります。

心不全患者は増えている



心不全の原因疾患には心筋梗塞、特発性拡張型心筋

心不全でも長生きを

心不全の予後を決める因子はいろいろありますが、なかでも以下の三つの因子が重要です。一つは過剰に亢進した神経体液性因子(レニン-アンジオテンシン系や交感神経系など)です。二つめは心肥大、心拡大です。心肥大が進むと重症度が進みます。三つめは不整脈(脈の乱れ)です。これら三つを治療目標にして、コントロールすることが、予後の改善につながります。

心不全の治療薬には、ジギタリス(強心薬)、利尿薬、アンジオテンシン変換

いま注目されているβ遮断薬



β遮断薬は、以前は心不全に禁忌とされた薬です。その後いくつもの大規模臨床試験が行われ、慢性心不全の予後を改善することがわかりました。最近の研究では、β遮断薬は心筋細胞内のカルシウム代謝を改善して、病んだ心筋細胞をよみがえらせる作用があるといわれています。

症、弁膜疾患、高血圧性心臓病、心筋炎などがあります。米国では一年間に五〇万人が新たに心不全になるといわれています。その原因疾患は心筋梗塞が六〜七割を占めています。日本の場合、明確なデータはありませんが、人口対一〇万人あたりの心筋梗塞患者数は米国の四分の一から五分の一です。しかし高齢化社会になるにつれて確実に心筋梗塞患者数は増加しており、その対策が重要になってきています。

日本人の心不全患者には特発性拡張型心筋症が多くみられます。また、中等度の心不全患者を対象とした大規模試験の結果では、同程度の重症度でも米国での一年間の死亡率が約一〇%であるのに対し、日本では一〜二%と、きわめて低い結果が出ています。これは心不全の原因疾患の違いと、二〜四週ごとに診療する日本に比べ、米国は三〜四カ月ごとという日米の診療状況の差なども反映している可能性もあります。

日本心臓財団より

日本心臓財団は、わが国三大死因のうちの心臓病と脳卒中の制圧を目指して、一九七〇年に発足いたしました。当財団は、研究に対する助成や予防啓発、また世界心臓連合加盟団体としての諸活動を通して、心臓血管病の予防・制圧に努めております。当財団は皆様のご寄付により運営されています。どうぞ皆様の協力をお願い申し上げます。

財団法人日本心臓財団
〒一〇〇〇〇五 東京都千代田区丸の内三・四一 新国際ビル
☎〇三・三三〇・一〇八〇
ホームページ・アドレス <http://www.jhf.or.jp/>